かんじ 1

「日年大人国」って何？

「日年大人国」――これは読売新聞に出てくる漢字の数を調べ、登場回数が多い順番に並べたものです。どれも音読み、訓読みの両方で用いられます。それだけ使い道がたくさんあるわけです。

毎**日**、近**日**、曜**日**、少**年**、年上、**大**きい、**大**学、**大**半、**人**間、**人**員、**人**々、**国**会、島**国**…これらの漢字を用いた言葉は紙面から簡単に見つかります。また、ニュース記事では事件や事故が起きた日にちが必ず入ります。「日」が一位になったのは当然でしょう。

雑誌や教科書を対象にした調査では、「人一日大年」の順番でした。「一」は、日付、時刻、人数、金額などでよく使われる漢字です。ただ、新聞は日時などに算用数字の1を使用するため、トップ5から外れたようです。代わりに「国」が入っているのは、外国との付き合い方や国際化の進展が、大きな問題として報道されているからでしょう。

ところで、朝日新聞でも同じ調査をしているのですが、この順番は読売新聞と変わりませんでした。「日年大人国」は今の新聞の言葉の特徴をよく表している漢字なのです。

もっとくわしく

新聞で多く使われる漢字は？

右ページで紹介した新聞の漢字調査は、二〇〇六年十月一日から十一月三十日までの東京本社発行最終版朝刊、夕刊を対象に行いました。広告やテレビの番組表などは除いてあります。延べ三四二万八八二九字、三七八七種類になります。第一位の「**日**」以下、**年**・**大**・**人**・**国**・**会**・**本**・**中**……と続きます。三七八七種類と聞くと多いように思いますが、第二〇〇〇位の「**釧**」までで九九・六％を占めています。情報を伝えるうえでは、二千字程度でほぼ足りるということになるでしょうか。

この調査は、**常用漢字**改定審議の参考資料として、文化庁から依頼され、作成したものです。そのときの常用漢字にない字で、新聞で多く使われていたトップ5は**藤**・**岡**・**韓**・**阪**・**奈**でした。この五文字は二〇一〇年、常用漢字に追加されました。

一回しか出てこない字も四二一字あります。たとえば「**矗**」。日本人として初めて南極大陸に上陸した探検家・白瀬矗の名前です。一九五六年十一月に日本初の南極観測船「宗谷」が出航してから五十年になるのにちなみ、南極観測に関する記事が書かれ、その中で出てきたものです。「日年大人国」のように毎日のように使われる漢字もあれば、その年、その日だからこそ登場する漢字もあるというわけです。